

# 大阪府感染症発生動向調査週報 (速報)

2018 (平成 30) 年 第 23 週 (6 月 4 日～6 月 10 日)

## 今週のコメント

～咽頭結膜熱～手洗いが重要

### 定点把握感染症

「咽頭結膜熱の増加続く」

第 23 週の小児科定点疾患、眼科定点疾患の報告数の総計は 2,820 例であり、前週比 1.5%減であった。定点あたり報告数の第 1 位は感染性胃腸炎で以下、A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎、咽頭結膜熱、突発性発しん、水痘の順で、上位 5 疾患の定点あたり報告数はそれぞれ 7.7、3.2、1.1、0.6、0.6 であった。

感染性胃腸炎は前週比 4%減の 1,529 例で、南河内 10.6、泉州 9.8、中河内 9.7、北河内 9.2 である。

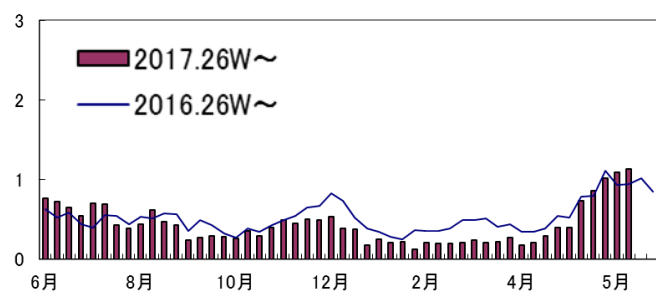
A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎は 1%減の 640 例で、南河内 4.8、泉州 4.7、大阪市南部 3.9、中河内 3.7 であった。

咽頭結膜熱は 5%増の 225 例で、中河内 2.5、大阪市南部 1.4、北河内 1.2 である。

水痘は 11%増の 117 例で、北河内・豊能共に 0.9、南河内 0.8 であった。

咽頭結膜熱

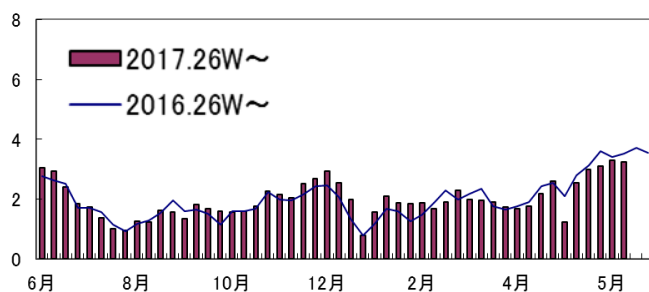
(定点あたりの報告数)



(月)

A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎

(定点あたりの報告数)



(月)

表 1. 大阪府小児科・眼科定点把握感染症の動向 (2018 (平成 30)年 第 23 週 6 月 4 日-6 月 10 日)

第 23 週 の順位	第 22 週 の順位	感染症	2018 年 第 23 週の 定点あたり 報告数	前週比 増減	2017 年 第 23 週の 定点あたり 報告数	2018 年 第 23 週の 年齢別 患者発生数 最大割合値
1	1	感染性胃腸炎	7.7	4%減	7.5	1 歳_14%
2	2	A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎	3.2	1%減	3.5	4 歳_15%
3	3	咽頭結膜熱	1.1	5%増	0.9	1 歳_37%
4	4	突発性発しん	0.6	9%増	0.5	1 歳_55%
5	6	水痘	0.6	11%増	0.5	5 歳, 8 歳_14%

## 第 23 週のコメント

～百日咳～ 2018 年 1 月 1 日より、全数把握感染症になりました

### 全数把握感染症

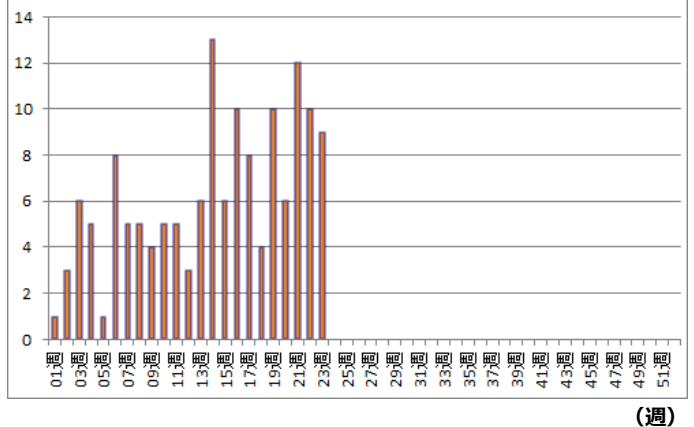
#### 百日咳

百日咳は、百日咳菌 (*Bordetella pertussis*) による急性の気道感染症である。潜伏期は通常 5～10 日で、かぜ様症状で始まり（カタル期）、百日咳特有の咳が出始める（痙咳期）。新生児や乳児早期では、肺炎、脳症を合併することがある。マクロライド系抗菌薬が有効であるが、近年国外では薬剤耐性菌も報告されている。百日咳の予防には、ワクチン接種が有効であり、乳幼児期に計 4 回接種されている。国内では、成人層の感染者数が増加傾向にあり、2018 年 1 月 1 日に小児科定点把握感染症から全数把握感染症に変更された。

[感染症疫学センターはこちらへ\(外部リンク\)](#)

百日咳とは([国立感染症研究所](#))

(報告数)



(週)

表 2. 大阪府全数報告数 ( 2018(平成 30)年 第 23 週 6 月 4 日 - 6 月 10 日 )

\* ) 注意 : この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります

疾患名	報告数	豊能	三島	北河内	中河内	南河内	堺市	泉州	大阪市	府内累積報告数
3 類感染症										
腸管出血性大腸菌感染症	5	1		3					1	78
4 類感染症										
A 型肝炎	3								3	20
デング熱	2								2	5
レジオネラ症 (肺炎)	3				1			1	1	28
5 類感染症 (麻疹、風しんは除く)										
カルバペネム耐性腸内細菌感染症	1						1			68
後天性免疫不全症候群	1								1	59
侵襲性インフルエンザ菌感染症	1							1		32
侵襲性肺炎球菌感染症	5						1		4	159
梅毒	14				4	2	2		6	500
百日咳	9	1	2	2					4	151
結核 (2018 年 4 月分)	結核 新登録患者数 : 149 名 (内 肺・喀痰塗抹陽性 49 名) (府内累積報告数 576 名、内 肺・喀痰塗抹陽性 220 名)									
麻疹、風しん	報告はありません									

(2018 年 6 月 12 日 集計分)